

魅力伝え居住地候補に



先月、友人の結婚式に参列した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で6月から延期となっていたものである。当日は会場入り口での消毒・検温に始まり、30分ごとの会場の換気、スタッフ以外によるお酌の禁止、写真撮影時の人数制限など、いくつもの感染防止対策が施されていた。ブライダル業はコロナ禍で多

筑波総研研究員

金田 憲一

くの式が中止・延期された上、披露宴中も徹底した感染防止対策が求められるなど大きな打撃を受けている業種の一つである。スタッフの業務負担が大きくなる中で「ウィズコロナ」時代への対応を模索している様子が見えがえ

初となる駅直結型サイクリング施設「りんりんスクエア土浦」の開設、サイクリスト向けホテルの開業、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」のナショナルサイクルルート（日本を代表し、世界に誇り得るサイクリングルート）を認定する制度への指定など着実に整備を進めてきた。その結果、「3密」を回避しやすいサイクリングは、茨城県の新たな観光資源として定着し始めているようだ。

このように「ウィズコロナ」が日常に次第に浸透していく中、現在、茨城県は居住地の候補として改めて期待が高まっている。当県は1住宅当たりの敷地面積が全国1位、可住地面積が全国4位（2018年10月時点）と、テレワークに対応した間取りの住宅を建てやすい環境にある。さらに首都圏に比べ不動産価格が安いにもかかわらず、出社が必要となれば首都圏へ通勤しやすい点も大きな魅力である。県内の一部の住宅展示場からは「お盆休み以降、都内からの来場者が増えた」という声も聞かれる。

こうした中、県ではテレワーク移住PRサイトを立ち上げ、移住希望者への情報発信を強化している。また、各市町村もテレワーク移住者へ住宅取得費などを補助する事業や移住後の生活を体験できる宿泊型ツアーを計画・実施しており、今後、県内への転入者増加が期待される。

今年の「都道府県魅力度ランキング」で茨城県は42位と、8年ぶりに最下位を脱出したが、「観光地だけでなく「居住地」としての当県の特徴を生かし、「ウィズコロナ」時代に合った新たな魅力を再発見・発信していくことが、本県のさらなる魅力度向上につながる」と考える。

（次回は来年1月23日掲載）